

# 関節リウマチ

松本衣代<sup>1)</sup>、野口まどか<sup>1)</sup>、小田純生<sup>2)</sup>、長谷川泰子<sup>3)</sup>

- 1) 神戸大学医学部附属病院 看護部 副看護部長、皮膚・排泄ケア認定看護師
- 2) 日本フットケアサービス株式会社
- 3) 神戸大学医学部附属病院 形成外科

## Point

- ▶ 関節リウマチの病態と治療を理解しよう
- ▶ 関節リウマチ患者のフットケアを考えよう

## はじめに

関節リウマチは、関節炎を主病変とする全身性炎症疾患です。進行性であることが多いこの疾患を抱える患者の苦痛を軽減し、その人らしく生活

を送ることができるケアを考え、実践していくことが重要です。そのために病態と治療についての理解を深めたいと思います。

## 関節リウマチの病態

関節リウマチとは、なんらかの自己免疫的機序によって起こる、慢性的に経過する関節炎を主病変とする全身性炎症疾患です(図1<sup>1)</sup>)。免疫に異常が生じ、自分自身の関節の中にある滑膜を攻撃し、炎症を起こします。そのため、関節の腫れ

や痛みとなって症状が出ます。滑膜の炎症が進行することで軟骨や骨の破壊が起こり、最終的に関節の破壊をきたします。また、全身性炎症性疾患であるため、発症時や疾患活動性増悪時には、発熱、貧血、全身倦怠感、易疲労感、体重減少、リ



ンパ節腫脹などの全身症状を伴うことも多い疾患です。

関節リウマチの有病率は0.5～1.0%、男女比は1:3～4とされています。好発年齢は40～60歳で、日本には70万人あまりの患者がいると推測されています。

経過の個人差が非常に大きい疾患であり、発症や進行の速度にはばらつきがあります。多くの場合、炎症の寛解と増悪を繰り返しながら慢性的に進行します。また、一時的に炎症をきたした後、長期間無症状となる場合や、炎症が寛解することなく急速に関節破壊が進行する場合があります。

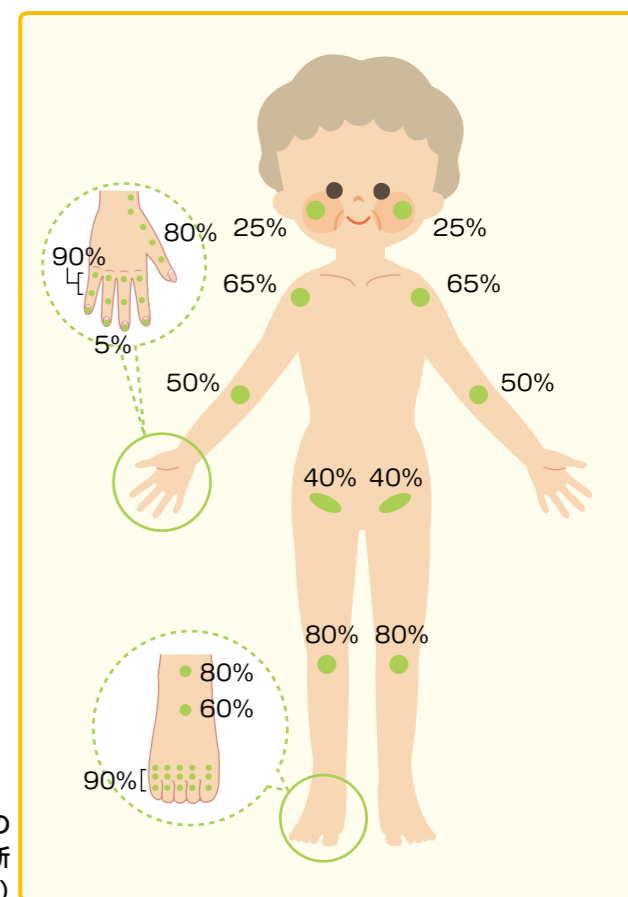


図1 関節リウマチの症状の出やすい場所(文献<sup>1)</sup>より引用)

## 関節リウマチの治療

関節リウマチの治療は、①薬物療法、②手術療法、③リハビリテーションを柱としておこなわれます。かつて関節リウマチはゆっくりと進行し、発症から10年以上経過してから関節破壊が生じると考えられていました。しかし、最近では関節破壊の進行は発症後早期から急速に起こることがわかってきました(図2<sup>2)</sup>)。そのため、早期に発見して、早期に治療する必要があります。適切な治療をおこなうことで関節破壊を防ぎ、関節の機能を維持して、日常生活への影響を少なくすることができます。

### 薬物療法

関節破壊は、発症後2年の間に最も急激に進行

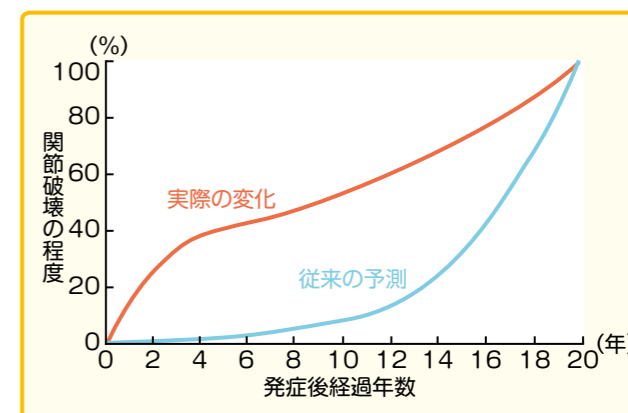


図2 関節破壊の進行(文献<sup>2)</sup>より引用)

することが明らかになっています。そのため、発症早期から抗リウマチ薬を積極的に使用して関節炎の進行を抑え、その後、症状の改善にあわ